

「父よ」－「天におられるわたしたちの父よ」

そこで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。…』
(ルカによる福音書 11 章 2 節)

「天におられるわたしたちの父よ、…」 (マタイによる福音書 6 章 9 節)

祈るということは、祈る人と、その祈りをささげ、呼びかけている対象があるということです。もちろん神様に祈るということですが、その対象になる神様がどのような方であるのかが大事です。主イエスは私たちに、神様を「父よ」と呼ぶように、教えてくださいました。旧約聖書においても神様を父と呼んでいるところがあります。申命記 32 章 6 節、マラキ書 2 章 10 節、イザヤ書 63 章 16 節などに記されています。

イエス様は十字架を前にしてゲッセマネで祈るときに「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。(マルコ 14:36)」と祈られました。「アッバ」という語はアラム語で、幼児が父親を呼ぶときの言葉で、ここでは、イエス様と神様との独自の関係を表しています。

それを知った使徒パウロは言います。「神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、『アッバ、父よ』と呼ぶのです。(ローマ 8:14, 15)」主イエス・キリストの贖いによって、私たちも神様を「アッバ父よ」と呼ぶことができることを使徒パウロは知りました。

マタイによる福音書 6 章には「天におられるわたしたちの父よ」と書かれています。つまり、天におられるということは、神様は人間の世界と離れた、超越した方で、聖なる方ということです。義なる方です。罪ある者を罰する方です。しかし、その遠き神、聖なる方が、私たちを救うために独り子イエスを通して、私たちに近づき、アッバ父になってくださったのです。天と地をお造りになった全能の方ですが、私たち一人一人の名を呼んでくださる方です。私たちの人生に関与して、神様と語り合いながら、一番良い道に進むことを、何よりも神様が欲しておられるのです。ですから、主イエスは、そのような父なる神様を信頼して、親しみと愛をこめて「父よ」と呼びかけるよう教えてくださいました。

*** 共に祈りましょう**

- ・聖なる神様に近づき「父よ」と呼ぶように、私たちのすべての罪を贖ってくださった主イエスの恵みに感謝いたします。
- ・天におられる神様が独り子イエスをこの世に送ってくださり、私たち一人一人の名を呼んでくださった、計り知れない愛に感謝いたします。
- ・子どものように、神様に「アッバ父よ」と呼びかけ、すべてを信頼して、祈り続けることができますよう導いてください。